■今月の特選句

2017年1月

羽子板は愛でられるより振られたい　八塚一青

擬人化で面白くなった。羽子板さんは自信満々。さぞ美人の羽子板なのでしょう。「愛されることに飽きたる女の子」。　姓は羽子で名は板か。

木洩れ日の行き場無くして枯木立　白井道義

枯木立になってしまったが、木洩れ日さんには辛い思いをさせることになりました。木洩れ日になり損ねたる太陽は木の葉求めてあてのなき旅。

女体めく山の稜線山装ふ　柳　紅生

ゴツゴツしてるのが男山、なだらかなのが女山でございます。ふくらみに続くくびれは、ミロのビーナスを思わせますとガイドさん。おい、ミロよ。

神々にエゴを聞かせる初詣　岡野　満

人間どもは無理難題ばかり言いおって。賽銭の額によっては願いを聞いてやってもよいぞ。なぬ、お賽銭が少ないのは「エゴ」ではなく「エコ」なんだと。

御破算に願ひたき世や年の暮　本門明男

算盤で使う言葉ですね。嫌な事は一切をチャラにして、新たな一年のスタートとしましょう。今年は酉年だから、ケッコウいい年になるはずさ。

干大根灰汁の抜けたる相（かお）となり　久松久子

干大根は確かに無欲というか、ギラギラしたところがないねえ。大声で傍若無人に振る舞う某国の次期大統領に食べさせたいですなあ。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

会報の一〇〇号となり屠蘇祝ふ　横山喜三郎
・・・屠蘇酌みながら滑稽一句

拾ふな落葉ここは日銀の前　山本　賜
・・・落葉一枚萬札に見え

キャンバスに裸婦を遊ばせ文化の日　越前春生
・・・孫にのぞかれ爺のまごまご

マメに歯のあはぬ齢や日脚伸ぶ　吉原瑞雲
・・・水にひと晩漬けておくべし

化粧せし男女夫々（それぞれ）返り花　八洲忙閑
・・・我が人生に不可能は無し

わが運は人に任せて後の月　久我正明
・・・うまくゆかねば手相見に罪

年の暮二十四時間早送り　稲葉純子
・・・思いがけずも早く齢取る

銀杏散る空を無くしてしまふほど　工藤泰子
・・・落ちた木の実を焼いたのが好き

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

熱燗に限ると云いて冷まし呑む　金澤　健
・・・猫舌さんが強がり言ったか

トランプを切りアメリカのお正月　上山美穂
・・・切られたのではありませんかね

人情の欠けらもないと氷踏む　川島智子
・・・人生ときに薄氷を踏む

初日さながら天の真赤な涙粒　新島里子
・・・おそらく天も結膜炎さ

悪さする足炬燵だけ知つてをり　田村米生
・・・だれも体験内緒の世界

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

	初詣誓った禁煙キャンセルす	青木輝子
【佳作】	イケメンをおだてて値切る酉の市	青木輝子
	古夫ににんじんぶらさげ煤払	青木輝子
	天心へ碧き強まる秋日和	青山桂一
	中空は紺碧なれど裾薄く	青山桂一
【佳作】	石蕗の花明りうれしと大袈裟に	青山桂一
	マラソンの学年ビリはみな太め	赤瀬川至安
	理事会に鯛焼は出ず延長戦	赤瀬川至安
【佳作】	着ぐるみがおでんおでんと学園祭	赤瀬川至安
【佳作】	わが涙笑いとセットや水洟も	秋月裕子
	散るや降るや楓紅葉にランドセル	秋月裕子
	辛いのは真綿にくるむ雪景色	秋月裕子
【佳作】	木枯に目覚めて回る風見鶏	有冨洋二
	ひと枝を奪い合ってる雪の花	有冨洋二
	外套に貯まるは小銭ばかりなり	有冨洋二
	干柿を食べて潔癖名乗る人	井口夏子
	寒紅のはみ出す口はたらこ口	井口夏子
【佳作】	咳き込むや我が魂の飛び出せり	井口夏子
	天下無用の案山子なれどもア・ラ・モード	池田亮二
【佳作】	長寿して度胸なくともふくと汁	池田亮二
【佳作】	血糖値と相談しつゝ酌む寝酒	伊藤浩睦
	木枯に吹かれ竹斎この町に	伊藤浩睦
	あの世への往復切符欲しき秋	伊藤浩睦
【佳作】	プップップッポーンうつらうつらの去年今年	伊藤洋二
	平和かな神も氏子も大晦日	伊藤洋二
	毎日が日曜となる初日の出	伊藤洋二

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	小鳥来る村を離れて町に住む	稲沢進一
	綿虫や日本列島地震ばかり	稲沢進一
【佳作】	天の川逢ふは別れの初めとや	稲沢進一
	霜焼の指や膨れつ面をして	稲葉純子
【佳作】	買つてすぐ未亡人となり手袋よ	稲葉純子
	冬帝が地球脱皮か地震数多	井野ひろみ
【佳作】	近年は年中師走師は多忙	井野ひろみ
	イルミネーションここが素敵ねクリスマス	上山美穂
【佳作】	冬空へ保育所うえーん合唱団	上山美穂
	かまぼこの板より出でし初日出	氏家頼一
	近道の畦道行くも恵方かな	氏家頼一
【佳作】	皸（あかぎれ）の掌で揉む餅の温さかな	氏家頼一
	冬木立魁偉の古木あらはなる	梅岡菊子
【佳作】	陋屋をラッピングして蔦紅葉	梅岡菊子
	エルニーニョ山には花の返り咲	梅岡菊子
	落葉焚く仲直りせし二人にて	越前春生
【佳作】	お互いに老いてくさめを傍若に	越前春生
【佳作】	自分から終わりにできぬ年賀状	岡野　満
	一年を反省しろと除夜の鐘	岡野　満
	寒鰤や俳人飩太今が旬	小川飩太
【佳作】	一日中炬燵に支配されにけり	小川飩太
	この落葉狸だったら大金持	小川飩太
【佳作】	流行に遅れるものかとマスクする	奥脇弘久
	賞与月分厚き広告楽しみて	奥脇弘久
	侘助や今日も下向きに詫びる	奥脇弘久

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	商戦てふいくさ煽るやクリスマス	加川すすむ
【佳作】	遅れ来て上座の隣年忘	加川すすむ
	俎板の鯉も数ふる除夜の鐘	加川すすむ
	山楂子の実をポケットに友来たる	加藤澄子
【佳作】	独言に猫のいびきの止まりけり	加藤澄子
	寒空に忘れられたる月一つ	加藤澄子
	花たるをおのれも忘れ芒かな	金澤　健
【佳作】	行く人にからむ悪癖拗ね木の葉	金澤　健
【佳作】	聞き役の母の座でんと長火鉢	川島智子
	雪国のころり観音大繁盛	川島智子
【佳作】	性格に裏おもてあり石蕗の花	久我正明
	冬に入る体重計は落し穴	久我正明
【佳作】	茶の花の蕊ぽかぽかと浮かれをり	工藤泰子
	爆発は藍の館の棉の花	工藤泰子
	山の神のどんど焚きし日開戦日	佐野萬里子
	〝大雪に〟紅葉掃きのとどめなし	佐野萬里子
【佳作】	韓国の弾劾旋風師走中	佐野萬里子
	着重ねや頬被りして冬帽子	下嶋四万歩
【佳作】	出世した果てに食はるる祝鰤	下嶋四万歩
	歯科医師のマスクはずせば只の人	下嶋四万歩
	りんご剥く妻の言の葉またも刺す	壽命秀次
	銀行へマスク帽子は外す暮	壽命秀次
【佳作】	無一文に白鳥群は着水す	壽命秀次

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	五十年尻に敷かれてそぞろ寒	白井道義
【佳作】	懐手してだんまりを決め込みし	白井道義
【佳作】	ゴムまりの如く妊婦の着膨れる	鈴鹿洋子
	鈴までの行列長し初詣	鈴鹿洋子
【佳作】	いつからかアオムシの穴許している	鈴木和枝
	飲めない酒注がれまあまあの仲	鈴木和枝
	トイレの列長くする冬日差し	鈴木和枝
【佳作】	ベランダにひざ掛けを干す冬初め	鈴木哲也
	冬帽子換えズボン履きスニーカー	鈴木哲也
	晴天にネックウォーマーを身にまとい	鈴木哲也
	目貼して岩井志麻子を読む夜更け	高橋きのこ
【佳作】	ヘルパーにロボット勤労感謝の日	高橋きのこ
	JKの造語に惑ふ一茶の忌	高橋きのこ
【佳作】	年惜むあと一枚の暦かな	高橋ユミ子
	大年の星は輝く道標	高橋ユミ子
	鯛焼のあふれる餡子胴になく	高橋ユミ子
【佳作】	木枯やタコ部屋から帰られず	田中　勇
	立冬やひやとひの逆立ちしたる	田中　勇
	病室の窓から観たる小春かな	田中　勇
	金色に身を染め冬至を待つ果実	田中早苗
	鹿鳴くを風情と聞きしは過去のこと	田中早苗
【佳作】	小春日や高速道は低速道	田中早苗
【佳作】	ロボットに掃除をさせて日向ぼこ	田村米生
	風邪声をセクシーねーと電話いふ	田村米生
	正月はトランプ遊びが大流行	津田このみ
	除夜の鐘いくつ鳴るのか数忘れ	津田このみ
【佳作】	去年今年自分探しの旅ばかり	津田このみ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	貯まるのはカレンダーだけ十二月	都吐夢
	飲み出した時は昼酒暮早し	都吐夢
	具次第でたかが雑炊されど雑炊	都吐夢
	自選八百他選一句や年忘	飛田正勝
【佳作】	飯待つ間五つ六つ剥く柿の秋	飛田正勝
	母も好き妻も好みの熟柿吸ふ	飛田正勝
	古稀すぎて師走になれど穏やかに	中井　勇
	初氷我が足跡を確保する	中井　勇
【佳作】	冬に入りトイレ回数びっくりぽん	中井　勇
【佳作】	初鴉いつも通りに啼いただけ	新島里子
	くさめ三回ぐらいぢや薬要りませぬ	新島里子
	トランプの札が飛び交う札納め	西をさむ
	トランプに負けてはおれぬ歌留多かな	西をさむ
【佳作】	ジョーカーの混じるトランプ冬ざるる	西をさむ
	忘年会数多過ぎて忘れ過ぎ	花岡直樹
	ビール派とケーキ派に分かれクリスマス	花岡直樹
【佳作】	出来るなら冬眠しつつ去年今年	花岡直樹
	宝くじ購うて祀るや神無月	原田　曄
	一一・二九（いいにく）の日なり腰痛ことのほか	原田　曄
【佳作】	凩や女とスマホ転倒す	原田　曄
	暖国や雪見障子の家建てて	ひがし愛
	中心にいて淋しさの冬の蜘蛛	ひがし愛
【佳作】	支部長と呼ばれ部下無し冬の蜂	ひがし愛
	眠つてゐると返事してゐる布団かな	久松久子
【佳作】	肩もみのマスクの中の大欠伸	久松久子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	ブラックホールの入口ならむ冬の闇	日根野聖子
	秒針のカチコチ硬き冬至かな	日根野聖子
【佳作】	リビングに落款のごと冬林檎	日根野聖子
【佳作】	鳥の背に乗りて小猿の年の暮	廣田弘子
	足元に青い鳥いて師走哉	廣田弘子
	鳥籠を囲みて生そば食ぶ晦日	廣田弘子
	星勘定氷のからだの納め場所	藤岡蒼樹
	北風リンゴの頬に祖父のキス	藤岡蒼樹
【佳作】	浅間風体に受けるかかあの顔	藤岡蒼樹
【佳作】	わたし的とは書くまいぞ日記買ふ	藤森荘吉
	数の子に指定席あるお重かな	藤森荘吉
	去年申今年酉年歳を取り	藤森荘吉
	降る雪に散歩の足も文句言う	細川岩男
	大都会雪数センチ泣き笑い	細川岩男
【佳作】	寒暖の落差に老いは追いつけず	細川岩男
	爺婆の指定席なり冬日向	本門明男
【佳作】	閑居してをれど師走は師走かな	本門明男
【佳作】	山荘の灯りのごとく石蕗の花	松井寿子
	紅葉径古刹の羅漢にご挨拶	松井寿子
	柊の香り馥郁身にしみる	松井寿子
	冬野菜満載のベビーカー押すベビー	松井まさし
	パトカーが蹤いてくるからマスクした	松井まさし
【佳作】	渋面はもちろん故意で日向ぼこ	松井まさし
	思春期の隣り思秋期おでん鍋	南とんぼ
【佳作】	うつむいて足引っ込める掘炬燵	南とんぼ
	山眠りじつさま眠り猫眠り	南とんぼ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	関白のやうな妻居る神の留守	村松道夫
【佳作】	トランプのジョーカー抜きし秋意かな	村松道夫
	直虎の胸豊かなり菊人形	村松道夫
【佳作】	始めから無ければ苦なし実千両	百千草
	落葉焚くために拾いし楢楓	百千草
	くつさめや電車通りの交差点	百千草
	令夫人襟巻押さへコンと啼く	森岡香代子
【佳作】	黒こげになりし秋刀魚の無念顔	森岡香代子
	「例のもの」「あれね」とわかる七草粥	森岡香代子
【佳作】	ちよんぎれてしまひ短日の立ち話	八木　健
	大丈夫だらうか下戸に卵酒	八木　健
	垂れることやめたがらない水つ洟	八木　健
	初富士や宝くじ引く宝富士	八洲忙閑
【佳作】	風呂吹の大言壮語法螺吹けり	八洲忙閑
【佳作】	開かれて笑う門には淑気満つ	八塚一青
	簡単に笑顔つくれる福笑い	八塚一青
【佳作】	携帯のふたごころある忘年会	柳　紅生
	かまととの手の重なりぬ歌留多とり	柳　紅生
	舌抜けそう愛媛みかん日本一	柳澤京子
【佳作】	冬蝶も祝うがごときひららひら	柳澤京子
	灯油切れ深夜ニャオニャオ震え猫	柳澤京子
	目高飼ふ景徳鎮の大火鉢	柳村光寛
	特売日箱で馬鈴薯買ふ媼	柳村光寛
【佳作】	水鳥の赤子のやうな寝相かな	柳村光寛

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	もの思ひありて秋あり峡の森	山下正純
	コスモスの背丈の先に振子かな	山下正純
【佳作】	山小屋の初ストーブや煤薫る	山下正純
	銀杏黄葉風に煽られ縦横に	山本けい子
	仏壇の鈴の澄み切る今朝の冬	山本けい子
【佳作】	じゃんけんぽん焼き芋買いに行く破目に	山本けい子
	覚えてゐる上野の梟のかを	山本　賜
【佳作】	寒気団渋谷に岡本太郎の絵	山本　賜
	ハロウィンの残骸冬至南瓜にす	横山喜三郎
【佳作】	いつまでもあると思ふなお年玉	横山喜三郎
	二度寝して仕事納めの頃の夢	吉原瑞雲
【佳作】	着ぶくれてご免なんしょお医者さま	吉原瑞雲

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。